



全国秋の読書週間 10月27日(月)～11月9日(日)

今年の標語は「こころとあたまの、深呼吸」

すっかり秋も深まり過ごしやすい季節となりました。全国秋の読書週間が始まりました。ぜひこの期間に、毎日の暮らしの中の、ほんのちょっとの時間、本に触れてみてはいかがでしょうか。

学校図書館支援センター実務研修会開催

—学校図書館活用教育の推進をめざして—

8.7 於：神栖市立中央図書館

昨年度に引き続き、藤田利江先生（全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー）をお招きし、『学校図書館活用教育の推進をめざして』をテーマに、学校図書館支援センター主催の実務研修会を開催しました。午前中は「図書館資料の活用」として資料のまとめ方を、午後は持ち寄った新聞をもとに「情報ファイルの作成」を実習しました。どちらもすぐに実践できる内容で、とても好評でした。

2020年度から順次、新しい学習指導要領のもとで導入された探求的な学びも5年目となりました。授業が調べ学習で終わってしまう、情報活用能力には個人差が見られるなどの課題も出てきているようです。探求的な学びと情報活用能力の育成における学校図書館の役割は大きいです。ぜひ、授業で活用できる学校図書館をめざして、研修会で学んだことを生かしながら、各学校で取り組んでいけることを期待します。今年は、これまで以上にたくさんの参加者となり、有意義な研修会となりました。



藤田利江先生



各自ワークシートに記入します。



総合百科事典ポプラディア、朝日ジュニア学習年鑑を使用しました。



新聞記事を切り抜いてファイル作り。

学校図書館アドバイザーからひとこと

『五十音順』忘れていませんか

『「五十音順の順番を忘れてしまう学生がいる」と言語学者の金田一秀穂さんが対談で嘆いていた。』と2025年6月21日付け、読売新聞の編集手帳に記載されていました。さらに『「紙の辞書は調べたい言葉だけでなく、周りの言葉も自然と目に入るのがよかったんですね。」』とも！

出前講座「百科事典マスター講座」の中で、国語辞典と百科事典を比較する場面があります。「五十音順に並んでいて国語辞典と同じだった。」の一言を期待するのですが…。気づくのは数名、むしろ気づかない児童の方が多いことに、毎回驚かされます。百科事典も国語辞典同様だと確認しても、スムーズに引けずに目的の見出し語に辿りつけずにいる児童もいるのが現状です。五十音順を忘れてしまうのは、タブレットやスマートフォンなどの電子機器を使う場面が増え、調べる単語だけを入力する結果なのだろうと考えます。確かに自分自身を振り返ってみても、些細なことでもすぐにスマートフォンで調べてしまっていると実感します。「自分で考える前に調べてしまうことが常識化するのが『検索依存症』です。」という一文を目にしたことがあります、いつの間にか私は検索依存症になっていたのかもしれない。

記事は、「ページを開いて、調べたい言葉の周りに何気なく目に入ったら楽しいだろう。五十音順を忘れることもない。」と締めくくられていました。世の中が便利になった分、忘れてしまうことが増えていくなんて、皮肉なものです。皆さんはいかがでしょう。

学校図書館アドバイザー 高田 悦子

令和7年度 製本講習会

10・8 於：中央図書館



キハラ株式会社 製本アドバイザーの川人拓先生

約10年ぶりの開催となった製本講習会。学校司書の方々を中心に24名の参加がありました。

普段の補修ではなかなかやる機会のない本格的な作業を教えてくださいました。コツをつかむまでに時間がかかるところもありましたが、グループ同士で教えあいながら、みなさん真剣な面持ちで最後まで仕上げる事ができました。

支援センター 2学期これからの動き

